



4月15日に全面的に脱原発 原発なしでも大丈夫

現在ドイツでは3基の原子力発電所が稼働中。本来2022年末すべての原発を停止して全面的に原発から脱却する予定でしたが、2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻により2023年の4月15日までの稼働延長を決定しました。暖房の主軸である天然ガスの55%を侵攻前はロシアからを輸入していましたが、ゼロになったからです。稼働延長はエネルギー不足に備えての「引き伸ばし稼働」であり、新たに燃料棒を投入するのではなく、現在ある燃料をできるだけ長く使うといえます。

ドイツ北部のエムスランド、南部のネッカーヴェストハイム第2とイーザー第2の3つの原発の「引き伸ばし稼働」により、今年は4月15日までに原発で5.4テラワット時発電します。これはベルリン市（人口300万人）の半年分の消費量に値します。

ドイツでは一般世帯の半分はガスで暖房しており、産業界でもよく使われています。政府は秋に天然ガス貯蔵庫を満タンにし、一般家庭や企業に使用量の2割減を呼びかけ、「料理の際、鍋にふたをする」「シャワーは短めに」「暖房の温度を低めに設定する」など省エネキャンペーンを展開しました。結局2022年の使用量は、2018—2021年の平均値と

比べて34%減に。暖冬だったのも幸運でした。2月1日までに貯蔵量の4割保持を目標としていましたが、1月18日現在で89%ですから安心です。万が一一回った場合は国の裁量で、家庭や教育機関、病院、公共施設を優先し、企業への供給は制限すると決めていました。

昨年6月に私がインタビューした時、ハーベック経済大臣（緑の党）は「エネルギー不足だからといって原発の稼働延長はありえない」と回答する一方、「実際、冬にエネルギーが足りるかどうかわからない」と危惧し、石油や天然ガスの買い付けに奔走しました。

今年1月の新聞ヴェルトで同大臣は「南の2基は本来稼働する必要はないが、フランスの原発が故障や検査で半数ほど稼働していないためフランスを助けなければならぬ」としています。ドイツは電力をフランスなど他国から輸入していますが、それ以上に輸出しており、総合すると輸出国です。

天然ガス不足により石炭や褐炭、石油の使用が増え、排出ガスにより地球温暖化が心配されますが、政府は「一時的に化石燃料の使用が増えるのは仕方がなく、いずれ減らしていくことに変わりない」というスタンス。しかし若者を中心に褐炭発電所拡張予定地を占拠したり、車のタイヤの空気を抜くなど過激な反対運動が起きており、2022年の不快

語として「気候テロリスト」が選ばれるなど社会的に注目されています。

私もガスで暖房、シャワー、料理をしています。ガス代などエネルギー価格をはじめ食料や日用品などすべての分野で物価高となり、人々の不安は募ります。ドイツでは電気、ガス、水道代は毎月定額を払い、年に一度清算するため今月いくら使ったのかわかりません。私も年間350ユーロ（約5万円）だったガス代が倍になると通知がきており、3月の清算に戦々恐々としています。

しかし評価すべきは日本のように「原発ありき」ではなく、再エネや新技術の活用に尽力していること。ドイツは2030年までに電力の約8割を再生可能エネルギーとする目標を掲げており、新規住宅の太陽光エネルギー利用の義務化のほか、国土の2%を風力発電に利用することを検討し、合わせてヒートポンプや水素、また暖房分野での再エネ増加など幅広く進めています。

原発で電力の7割をまかなうフランスは故障だけでなく、川が凍って冷却水を調達できなくなり稼働停止となったこともありました。「原発による安定供給」は幻想ではないか。ドイツは原発なしでも十分やっていけることを証明しようとしています。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

AKIRA の 成長記録

昨秋、日本の中学校で中3の同級生が一生懸命勉強に励む姿を見て、明は「休み時間も勉強するなんてすごい。みんなやる気がある」と感動していました。本人たちは受験のプレッシャーで一刻を惜しまず勉強しているので、お気楽ドイツで育った明にはとても新鮮に映ったようです。ドイツに戻ってから「勉強をよくする学校に行きたい」と、成績で国内十指に入るといわれるカトリック系の学校に転校したいと言いました。小学校時代の親友が通っているので、授業の様子も聞いています。

転校の可否は試験ではなく、直近の成績によるのですが、何より大事なのはカトリック教徒であること。明は無宗教

なので、成績はOKでも入学できないかも。私立なので学費が年5万円ほどかかります。

新学年は8月から。以前は8月からオーストラリアに半年留学したいと言っていたのに、転校早々留学というわけにはいきませんから、留学はなしになりました。けれど転校できる保証はなく、できたとしてもクラスメートや先生との相性がいけないとは限らない。親友とは第二外国語が違うので、同じクラスになれない。親としてはため息ですが、それでも転校したいというのだから仕方ありません。無事転校して、来年3月から後期で半年留学できればいいなと希望を持っています。

それにしても、うちでは相変わらず勉強しない。本人いわく「ひとりだと続かない、だから厳しい学校がいい」とか。転校してからがちょっと心配です。